

脳科学者・中野信子先生による子ども向け実用書 第2弾！

**『中野信子のこどもアート脳科学 ～「わからない」を楽しむ高IQ脳のそだて方～』
フレール館より10月27日に発売！**

株式会社フレール館(本社:東京都文京区、代表取締役社長:吉川隆樹、以下フレール館)は、多くのメディアで活躍中の脳科学者・中野信子先生による子ども向け実用書『中野信子のこどもアート脳科学 ～「わからない」を楽しむ高IQ脳のそだて方～』を、2023年10月27日より、全国の書店・ネット書店にて発売いたします。



- ・ 著者 : 中野信子
- ・ 発行年月 : 2023年10月
- ・ 定価 : 1,694円(税込)
- ・ 対象年齢 : 小学校高学年から
- ・ サイズ : 21×19cm
- ・ ISBN : 9784577050866

書籍詳細ページ

[https://book.froebel-](https://book.froebel-kan.co.jp/book/detail/9784577050866)

[kan.co.jp/book/detail/9784577050866](https://book.froebel-kan.co.jp/book/detail/9784577050866)

全国の書店・ネット書店で予約受付中！

<中野信子先生よりメッセージ>

現代は、「不確実性の時代」といわれます。

昨日まで確実だったことが、今日はもう変わっているかもしれない。何が起るかわからない。そんな状態が、よりスピードを速めながら、次々とやってくる時代になったのです。

とても豊かに、便利になった一方、状況の変化が驚くべき速さで襲い掛かってくるような世界で、私たちはどうすればもっと賢く、充実して生きていくことができるのでしょうか。

本書では、皆さんがこの過酷な世の中を生き抜けるよう、「アート」を切り口にして「高IQ脳」のそだて方を考えていきます。

人間が持つ豊かな「想像力」がつくったアートを体験しておくことは、いずれあなたの血肉となり、生きる力となり、この先に出会うどんな困難をも輝きに変えていける、あなたの知性そのものとなるでしょう。「わからない」を楽しむ力は、どんな人の脳にも備わっています。

さあいっしょに、あなたの「高IQ脳」をそだてる、アートをめぐる旅をはじめましょう。



著者近影/川しまゆうこ

<本件に関するお問合せ先> フレール館 広報担当 kouhou@froebel-kan.co.jp

<脳の仕組みをわかりやすく解説！ オールカラー！>

● 脳を左横側から見た図

背外側前頭皮質
「社会脳」ともよばれる。情報をあつかう、自分を客観的に見る、理性を働かせる、入づきあいにおいての計算をするなど、社会でうまく生きていくに必須。IQ（知能指数）とも関係している。

側頭頭頂接合部
側頭葉と頭頂葉が接する部分。時間の感覚をあつかう場所。25～30歳くらいにかけてそだつ。

眼窩前頭皮質
「共感」を生み出す場所。相手の状況を理解しようとする場所。「美しい」など、自分の感情の価値を決める。

左上側頭溝
他者の感情を判断するなど、「空気を読む」場所。

● 脳を左横側から見た図

前頭前野
人間らしきをつくる場所！
「わからない」を楽しみ、「ちがいが」を喜ぶ！

- 考える
- 判断する
- 応答する
- アイデアを出す
- 感情をコントロールする

などの働きをあつ持っている。

脳は4つの部分に分けられます
①後頭葉 ②側頭葉 ③側頭葉 ④前頭葉

運動野 **体性感覚野**

前頭葉 **頭頂葉** **側頭葉** **後頭葉** **小脳** **視覚野**


言語野（ブローカー野） ※左側のみ
言語野（ウェルニッケ野） ※左側のみ

★葉…脳のなかの自立ったみぞによって分けられた範囲。
★野…神経細胞のちがいや特徴によって分けられた範囲。

●言語野が左側にあるのは、右利きの人では約9割、左利きの人では約5割ですが、その理由はわかっていません。
●耳から入ってきた音の情報を処理するのは「聴覚野」という場所です。「聴覚野」は脳の右側と左側、どちらにもあります。

<アート作品写真やイラストがもりだくさん！ 顔文字のヒミツ解説や「盲点」の実験も紹介>

「想像力」ってなんだろう？



実験の顔文字

ほとんどの人に
「想像力」はある

もうひとつ、みなさんにもなじみ深い、これを見て下さい。

SNSやメッセージなどでおなじみの顔文字です。これを見たとき、ほとんどの人は「笑っている顔」と思いますが、

でも……よく考えてみれば、これはただ山型の印がふたつ並んでいるだけの、ただの線です。

けれども、わたしたちはこれを見て「笑っている顔」を想像します。

そして、「あ、うれしいんだ」「いま喜んでるんだ」もしかして、あおってる……」などと、たったこれだけ

ほかに、人それぞれ感じることがあるでしょうし、自分に感じられることがあれば、この絵にどんな物語をつけてもかまいません。

ポイントはこの墨で描かれた白と黒だけの世界を前にするだけで、遠く時空を超えて、現代のわたしたちも、ひんやりした松林の霧の空気を感ずることができるといふ事実です。

これが、わたしたち人間が持つ想像力です。

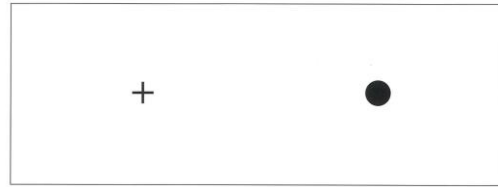
もし想像力がなければ、この絵は本当に、ただ白地に黒でシミがつけてあるように見えたりしてしまうでしょう。

それこそ、人間以外の動物には想像力はありませんから、チンパンジーがこの絵を見て、なんのこともわかりません。

でも、わたしたち人間はこれを見たときに、「松だ」と思えます。松だとはわからなくても、「なにかの木が生えている」とは思うでしょう。

重要なのは、白地に描かれた、たったこれだけの「墨」から、わたしたちは実にさまざまな物語をつくることができるということです。

その物語をつくる力こそが、まさに人間が持つ「想像力」なのです。



① 本から距離を空け、左目を閉じ、「+」を右目だけで見てください。
 ② 「+」を見つめたまま、視野の片隅に「●」があることを確認します。
 ③ そのまま、本を自分のほうに、あるいは自分を本のほうにゆつくりと近づけます。

どうですか？ ある距離のところで、「●」が消えてしまふポイントがありませんか？ うまくいかない人は、大きな紙に書いてみてください。
 単純な実験ですが、視界にあったはずのものが、見えなくなるにおどろくはず。

これが、「目の構造上、見えない部分である『盲点』」というものです。なぜ、こんなことが起きるのでしょうか？
 まず目には、入ってきた光を受け取り、脳への「視神経」に伝える「網膜」があります。
 でも、網膜は、視神経がつかぬいて入っているところ

だけ細胞がなく、そこで光を受け取れないため、なにも見えていません。
 そのため、見えていないものは、まわりの情報によって「補かん」されるのです。

つまり、わたしたちが見ているものは、そこにある情報をそのまま見ているのではなく、「脳」によってつくられたもの「見えていること」になります。わたしたちには、そもそも「見えているようで見えていないもの」があるということを意味します。

また、人の想像や判断などによっても、「かたより」が生まれます。
 これを、「バイアス」といいます。

たとえば、コロナ禍になり、「マスク美人」という言葉が使われるようになりました。「マスクをした顔が（一般的な意味で）美しく見える人」をさす言葉ですが、これはマスクをした顔を見たときに、脳がかくれ部分の平均的な顔として補うことで、美しく見えやすくなるわけです。

ほかにも、「あるはずがない」と思うと、本当になくように見えたり、「あったはずだ」と思うと、本当にあったように記憶が書きかわったりすることもよく起こります。
 それほど人間の思考や判断や記憶などは、柔軟なものなのです。

■著者プロフィール

中野信子（なかの・のぶこ）

脳科学者・医学博士・認知科学者。1975年、東京都に生まれる。東京大学工学部卒業後、同大学院医学系研究科修了、脳神経医学博士号取得。フランス国立研究所ニューロスピんに博士研究員として勤務後、帰国。現在は、東日本国際大学などで教鞭をとるほか、脳科学や心理学の知見を活かし、マスメディアにおいても社会現象や事件に対する解説やコメント活動を行っている。

レギュラー番組として、『大下容子 ワイド!スクランブル』（テレビ朝日系/毎週金曜コメンテーター）、『英雄たちの選択』（NHK BS プレミアム）、『ホンマでっか!?TV』（フジテレビ系）。著書には、『サイコパス』（文藝春秋）、『人は、なぜ他人を許せないのか?』（アスコム）、『空気を読む脳』『ペルソナ』（ともに講談社）、『「超」勉強力』（共著、プレジデント社）『エレガントな毒の吐き方』（日経BP）、『脳の闇』（新潮社）、『中野信子のこども脳科学』（フレーベル館）などがある。

■フレーベル館の事業内容

「アンパンマン」シリーズや「ウォーリーをさがせ!」シリーズをはじめとした児童書の出版や、保育関連施設向けの遊具・教材・玩具の販売、そして室内あそび施設事業の展開など、子どもたちの健やかな育ちを支え続けるために、子どもに関わる事業を幅広く手がけています。

・フレーベル館コーポレートサイト <https://www.froebel-kan.co.jp>

